
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター
センターだより第208号(通巻第275号)

2023年12月4日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

*****コンテンツ一覧*****

- 新任教員 着任のご挨拶

- やまなし情報教育推進室 2023年10月実践センターに開室しました！

- 令和5年度子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会 実施報告
—OPPシートによる学習・指導と評価の一体化—

- 第43回教育フォーラムのご案内 (2024年1月26日)

- 12月・1月の主な行事予定

■新任教員 着任のご挨拶

教育実践研究部門（専任教員 准教授） 渡部 雪子

クリニックや学校のカウンセラー、大学教員としての勤務を経て教育実践総合センターに辿り着き、10月に着任いたしました。スクールカウンセラーとしての経験を活かして教育相談事業や附属4校園との連携を担って参りたいと思います。これまでも公認心理師養成課程における実習指導を担当しており、他機関との連携を担うことが多くありました。センターにおきましても、総合教育センターや小中学校をはじめとする他機関との連携を担う役割を与えていただきました。このようなお役目を拝命するということは、アクティブに身体を動かし実践的に臨床と教育研究を繋いでいくことが使命だと改めて感じております。

専門は臨床心理学（学校臨床分野、家族臨床分野）です。親子関係における認知・感情に関する研究や抑うつ治療における介入プログラムの開発に携わっております。少しでも現場のニーズに応えられる研究を続けていけたらと思っています。

このセンターだよりにお目通しいただいている方々のお力添えをいただきながら、教育・研究に尽力していきたいと思っております。大変長くなりましたが、どうぞよろしく願いいたします。

■やまなし情報教育推進室 2023年10月実践センターに開室しました！

10月1日、全国的に喫緊の課題とされるICT教育の充実を図るため、山梨県と教育学部が連携し、実践センターに「やまなし情報教育推進室」を設置しました。山梨県の支援の下、大学及び県内のリソースを最大限に活用し、山梨県内の小・中・高・特別支援学校のICT教育の推進、1人1台端末を活用した方策の研究、教科「情報」教員の養成・育成、さらには教育学部・教職大学院・附属学校園の情報教育推進などを行っていきます。

具体的な活動は、今後、このセンターだよりや、開設予定の「やまなし情報教育推進室」HPで発信していきます。

なお、「やまなし情報教育推進室」開室セレモニーを、12月15日（金）11時より山梨大学甲府西キャンパスJ号館玄関前にて実施いたします。

令和5年度
子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会 実施報告

－OPPシートによる学習・指導と評価の一体化－

<事業概要>

山梨県総合教育センターとの共催により「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会
－OPPシートによる学習・指導と評価の一体化－」を開催しました。

本研修は、学習・指導と評価の一体化を可能にし、授業方法の改善につなげていくための方法である OPPA（1枚ポートフォリオ評価）についての研修会です。

昨年度は「基礎研修会」と「応用研修会」の2部構成で行いましたが、本年度は演習・グループワークに十分時間をとり、初めての方も経験者も共に研修を深めることのできる一部構成として実施しました。

- 峡中会場 : 令和5年8月8日(火) 甲府市南公民館
- 富士・東部会場 : 令和5年8月9日(水) 富士・東部教育事務所

<講師>

- 堀 哲夫 先生 (元山梨大学理事・副学長)
- 辻本 昭彦 先生 (法政大学生命科学部生命機能学科 准教授)

<内容>

研修会の前半の理論編では、堀先生からは OPP シートのねらいや作成に必要な構成要素などについてのお話に加え、OPPA と教育の本質との関わり・本質にどう迫るか、OPP シートのデザイン等についてご講義がありました。

後半の実践編では辻本先生からアイスブレイキングとして初公開となる双六トークから始まり、OPPA シートを短時間で記号を使った見取り方とコメントの書き方についてのワークショップ、主体的に取り組む態度の評価と OPP シートの関連についてのレクチャーがありました。

本研修会は、山梨県総合教育センターとの共催事業として、総合教育センターの研修計画に組み込んでいただき、県内すべての学校に周知すると共に、各地区の教育事務所にもご協力いただきました。本年度は、感染症上の扱いが5類相当になったことを受け、感染症対策を行いながらも通常の形で実施することができ、多くの方に参加していただきました。

<受講者>

- ◆ 研修会 59名
- 内訳 : 小学校25名、中学校11名、高校15名、支援学校5名、その他(行政等3名)

<成果と課題>

研修会で各自が記入した OPP シートによると、多くの参加者が自分の授業に対する考え方が変容したり、評価方法を工夫する必要性を感じたりしたことで、今後取り組みたいことが明確になったと記述していました。

○総合教育センターの研修会アンケートより

研修会は役立つ内容であったか

満足した 98% どちらでもない 2% 満足しなかった 0%

本研修会を通して、評価の本質についてとらえなおし、授業に対する考え方が変容した教員が多くいました。また、研修後に実際に事業等で OPP シートが活用されたことは、大きな成果と考えます。

本年度は経験した方も初めての方も研修を深めていける内容とし、基礎、応用と分けずに実施しました。また、実際の授業に活用できる研修となるよう、実践編の時間を多くとりました。今後、さらに内容を充実させ OPPA への理解を深めるとともに、OPP シートの活用を広めていくことで、多くの教員の授業力向上に役立てていただけるような研修にしていきたいと思えます。

◇研修会での受講者の OPP シートより

- 高校では知識や理論が優先されている。いかに発想を転換させられるかが、今後の課題である。また主体性の評価をどうするか引き続き考えていきたい。また生徒のコメントをどう生かしていくか学べたように思う。(33 年目)
- 子供の自己肯定感を上げ引き出すことで、子供が主体的に取り組むようになり、学び続ける子供になり、成長を引き出すということにつながると気づきました。理科や道徳で活用させていただきたい。他の評価でも具体的にどのように活用しているか、また勉強したいと思った。(27 年目)
- 受講前に考えていた授業者としての大事な視点はさほど間違っていなかったといえる。OPPA を取り入れる難しさを解消するヒントが講義の中で触れられていたので勉強になった。できるところから実践してみたいと思う。(23 年目)
- 生徒への働きかけに重点を置いていたが、これから調整、改善することでより働きかけることができることが多くある。(3 年目)
- 何が大切であるかということは感じていたのですが、より具体的にどのようにアプローチをすることが良いかと言うことがよくわかりました。(11 年目)
- 教材研究の大切さと子供主体で授業を作ること、自己肯定感を高めることも授業では大切だと思った。議論したり表現したりすることの大切さにつなげていきたい。(5 年目)
- OPPA を毎時間の授業で使えたら良いのだが、なかなかそうもいかないのが現実。大切だと言うことがわかっていてもそれを実現できないと意味は無い。授業中で何とか今回の学びを活かして価値ある授業を展開していきたい。辻本先生が紹介されていた仕方なら、毎回の授業に使えそうだった。(24 年目)
- OPPA をタブレットでどうやって実現したら良いか、2 学期チャレンジしてみたいと思う。自分の考えを文章で書く習慣を身に付けさせるのにも OPPA は効果的なんだと思いました。自分の考えでなく授業で教師が言ったことをそのまま書いた子は、どの記号になるのが悩みました。
- 高校は 1 人 1 台端末を用い、ICT 活用する授業の展開に終始しがちですが、原点に帰り、もう一度生徒一人ひとりの変容を見取る端末の活用を意欲的に考えてみようと思いました。(23 年目)
- 受講中は、自分のクラスの子供たちの姿を思い出しながら、あの子だったらどう答えるだろうか。勉強が苦手な子にはどんなアプローチができるだろうかと具体的な姿や場面をイメージしていました。目の前の子供

の姿から授業を作ること、単に面白いだけでなく、考える場面を設定する授業を考えなければいけないこと、当たり前のことですが、その大切さを学び直しました。(20年目)

- 経験が大切で、生活と関連した授業の導入を行っていたけれども、生徒の元々の能力からも自己肯定感を見取り、さらに伸ばすことも必要だと感じました。やはり授業が1番大切で、その改善を図るためにOPPAは有効だと思いました。校内研でも今回の講義を生かして取り組んでいきたいと思いました。次につなげていきたいです。(8年目)
- 学校の授業の中で獲得できる自己肯定感は、相対的な肯定感なので(ありのままが良いと言う絶対的な肯定感を育てられると言うのは難しいように思う) 課題に対して見通しを立てて取り組むことができると言う自己効力を育てると言うことが、個人的には納得感がある。(22年目)
- 受講前には、発問の工夫と教師の働きかけや教材研究が何より重要だという考えにとどまっていたが、受講後には授業を受けた子供自身が授業前後の自分の変化や学びを看取る振り返りが大切だと変わっていることに気づきました。(4年目)
- 受講前に書いていた子供に求めている事は、まず自己肯定感が高まっていないとできないことです。そしてプラス評価の考え方はあながち間違いではなかったと思いました。教師にとっても子供たちにとってもプラスしかないOPPAに2学期から早速取り組んでいきたいです。(17年目)
- 教室で学ぶことの大切さを改めて感じました。集団でしかできない学び、生徒が生徒から学ぶことができる環境をOPPAは可能にすると思いました。(39年目)
- OPPAは学習記録と言う意味合いで考えていた。実際に授業で取り入れているが上手に活用できていなかった。自己肯定感の低い子供たちが多く、何事も意欲があまりない生徒に対してOPPAを取り入れ、前向きにチャレンジできる生徒を増やしていきたい。疑問点ということではありませんが、ICTを取り入れた授業はここでも多くなってきています。ICTでの実践例等がありましたら教えて欲しいです。(15年目)
- 自己肯定感と安全安心の関係作りは、問いの重要性についての理解が深まったし、授業構成のメタ認知について新しく知ったことが大きな収穫だった。(32年目)
- 汎用性の高いシートがあったり、先生たちで共有したりすることができればOPPAを使う先生も増えるのかな？(4年目)
- 受講前は授業の内容ややり方といったどう教えるかどう理解させるかと言う部分が重要だと考えていた。それに比べて受講後は子供の学習に向かう姿勢や資質を伸ばすことが重要であると考えが改まっている。(2年目)
- OPPAにより授業改善、学習改善につなげるためには、教員のビジョンがしっかりしていることが大切だと思いました。モデルとなる取り組みや示されても、教師にOPPAを活用する意識や工夫をするキャパシティがないと宝の持ち腐れになってしまいます。(40年目)
- 受講前は、わからせることを教師の私が設定してしまっていた。それが学ぶ範囲を狭めていた黒板に書いたことを生徒が写して、それを大切だと互いに思ってしまう。受講後はこれだけではダメで、生徒自身の思考気づく学びが大切だと思った。(17年目)

- 子供が中心という言葉はわかっていたけど、授業は先に生まれた私たちがどう学ばせるかを中心に考えてしまいがち。しかし、学ぶのは本来、子供自身だと言うことが強くなりました。(20年目)
- OPPA がどの教科分野でも有効であること。問いがすべての鍵を握っていること、単元構成の重要性、学校教育改善のみならず授業改善につながる内容であることがわかった。(27年目)
- 一人ひとりの見取りをどのようにして授業をどのようにに仕組み、適切に評価していくことで、子供の成長を引き出すことができるのではなかとと思いました。(38年目)
- 受講しながら感じていた事は、生徒がノートを一生懸命取っていることが多いように思った。「できた」を実感する機会をもっと設けていこうと思いました。テストに出るかもとの思いから一生懸命ノートを写す子供が多いため、できるだけ多くの活動を取り入れて、授業の中で生徒の動きをたくさん作るようにしてきました。今日の講義からいかに子供たちを学びの主体にさせるか、そのためにどんな授業を作っていけば良いか考えることが大切だと思いました (25年目)
- 辻本先生が授業の中で子供の声を大切にしているところが心に残りました。教師が子供に与えるだけでなく、子供から引き出すことが大切だと思います。さらに ICT 活用で子供の学びを保存していけば6年間また3年間の成長の過程が可視化できると思います。(20年目)
- 子供が主役で安心して考えを出し合えるようにするには子供が安心できる環境にすることが必要だと思った。子供の成長を引き出すためには、子供の様子を見取りながら授業改善をしていくことが大切だと思った。(5年目)
- 前は自分が準備したものを使って子供がことを主としていた。つまり教材をいかに上手に揃えるか。受講後は子供が自ら学べるように大切なものをその子の中に備えてあげることが大切だと変わっている。(21年目)
- 子供主体にするためには問いが大切であると思った。また授業改善をしていくためには1時間ごとの振り返りを大切だと思った。道徳の学習では有効ではなかと感じた。(7年目)
- 受講前の環境づくりと言う部分についての具体策の1つとして、OPPA が非常に有効であると言うことが講演によってわかり、やってみたいと言う意欲がわきました。(23年目)
- 授業づくりや構造的な視点が多かったが、この認知能力や個の見取り、アセスメントを重視することが結果として学力向上、実質能力の育成につながる。昨年度も受講し、OPPA を使って音楽科でテストをしました。今年度も参加して新たな視点をいただいたり可能性を感じたりできました。(21年目)
- いまだに授業をイメージすると自分が主役になっている。指導案作成時に、活かすのは生徒の思考・発想をもっと主にする。(29年目)
- 一人ひとりを伸ばす際には、教師の授業力やモチベーションが大切だと思っていたが、あくまでも授業の中心は子供であり、子供たち同士の学びあいの中でそれぞれが高め合っていることがわかった。学力はそれについてくるものだと思った。(26年目)
- 研修の中で、記述に対する見取りや評価の部分がなかったので、受講後は評価についての記述が先に書かれるようになっていた。OPPA は子供の変化を子供自身も気付けるという点が良いところだと再度思った。問

いの設定の仕方に何か良いヒントがあればお伺いしたいです。問いの設定として労力がかってしまうと思っているのでお願いします。(27年目)

- 私も OPP シートを使っているのですが、生徒自身に自分の学びに気づかせる。自分の思考の特徴に気づかせメタ認知を高めるところまでは行っていないことに今回の研修を通して気づきました。(40年目)
- 受講前はこれが重要なんだよなあと思っていたことが受講後にはこうすればいいんだとわかった。小学校だと全教科全単元での OPP は難しいですが、自分でこれと決めてやっていけるといいと思いました。以前小5の社会で OPP を作成し、使用した子供たちがのってきた。(28年目)
- 受講前は自分に矢印を向けて深く考えることが大切だと考えていました。受講後も考え変わっていませんが、そのための具体的な手立てがわかった気がします。OPP シートの活用や他者との関わりの中で、より自分について深く考えることができるのだと思いました。(8年目)
- 受講前の自分の文章は、授業における「主導者が教師」という思いが強く、受講後は学びの主体が生徒と言う思いが強くなったと感じます。もちろん、興味関心を引き出す工夫は必要ですが、「生徒主体の学び」と言う視点を再認識できました。評価の評定についてはやはり悩みます。数値化することについて良い視点はあるのでしょうか。(7年目)
- 意欲を引き出したり、モチベーションを上げたりするにもいろいろなやり方があると思いました。謎の記号とか、すぐに使えそうなヒントになることもあったので、授業や評価の方法を工夫してみたいと思います。(21年目)
- どちらも子供たちを見取ることが重要だと書いているが、受講後の方が何を見取るのがより具体的になっている。(33年目)
- 受講前は細かな手法についてしか考えていなかったが、なぜそうすべきなのか、どうしてその手法が有効なのかについての基盤、子供たち視線での捉えと言う視点が増えたように思う。(2年目)
- 問いにも一つ一つ教育の目的があることを改めて学びました。OPPA で授業をグランドデザインすることで、指導と評価の一体を見る、確認できると思いました。(23年目)

◇山梨県総合教育センターの事後アンケートより

1 研修会の内容や運営等で良かった点、改善した方がよい点など

- 一昨年度に続き、参加させて頂きました。(私が忘れかけていた) OPP シートの理念を、改めて認識することができたように思います。
- 後半の講義は能動的な活動もあり楽しかった。現場で実践をしてきた先生の話には説得力があり、素直に聞きやすいと思った。今後もぜひ現場経験者を講師にしてもらいたい。

- 理論と実践という内容で、とてもわかりやすかったです。特に法政大学の辻本先生の、教師としての温かい考え方、在り方が、講義のお話の中にあり、教師としての姿勢を学ぶことができました。講義で使われていたスライドの資料があったら、再度学び直せるのにと思いました。
- 昨年も参加しましたが何度お話しをうかがっても学ぶことが多く、他校種の先生方と話をしたことも貴重な経験となりました。ありがとうございました。
- OPPA シートを活用したことがなかったので、1枚のシートにまとめる活用方法がわかりました。児童も教師も振り返りや変容がわかるので、教科や単元によって工夫して活用していきたいです。
- 途中までしか話は聞くことができなかったが、2学期から役に立つような話だった。
- 長く OPP シートに関わってこられたお二人の講師がとても良かった。
- 「OPP シートとは」から効果や注意点がわかりやすかったです。・お二人の講師の方の内容のつながり(理論と実践そして演習)がわかりやすかったです。
- OPPA については知ってはいたものの、具体的な活用方法や評価方法についての知識が乏しく、活用していませんでした。しかし、本研修を通して、OPPA の基本的な評価方法等について学ぶことができ、知見が広がりました。山梨大学との共催研修ですが、より多くの方に参加していただくためにも、外部研修にとどまらず開催することも可能かと思えます。
- OPPA について、理論研究だけでなく実践的な部分を講義いただき、非常によかった。また、座学だけでなく机を離れての内容もあり非常によかった。今後現場でやってみたいと思える実践的な内容でした。
- OPPA についてほとんど知らないまま受講しました。とてもわかりやすく目的や活用方法、具体的な授業事例を知ることができたことがとてもよかったです。実践してみて、また次年度も受講したいです。
- OPPA に関する概要と実践事例を学ぶとともに、グループワークをとおして体験的に学ぶことができた。OPPA を活用することで、授業改善・学習改善を手軽に行うことができ、教員にとっては授業づくり、児童生徒にとっては資質能力の向上を継続的にできることを再認識した。OPPA に基づいた授業づくりを進めるなかで、児童生徒の自己肯定感を高めるとともに、アウトプットの機会を多く設け、多様な考え方に触れ、合意形成を図る授業が実現できることを学んだ。
- OPP シートに大変興味を持っておりました。児童の理解が変容する過程が、本人にも指導者にも分かるという点がとても便利だと思いました。また、実践の紹介がたくさんあったり、どんな教科でも使えたりというところが大変勉強になりました。
- OPP シートについてより詳しく学ぶことができ、よかった。
- OPP シートを使った実践例で教科ごとにもう少し具体的な内容を聞きたかったです。
- OPP シートの活用方法がよくわかりました。今回の研修を受け、子どもの本音を引き出すために大切なことを理解することが出来たので、授業以外でも普段の中でも活用できそうだと感じました。ワークショップ形式での研修でより、内容がわかりとても楽しく学べました。
- あらゆる校種の先生方と、交流できたことがとても良かったです。

- OPPシートを使って受講前、受講後の変容を可視化し、ふりかえることを通して、OPPシートの有効性を実感することができました。
- お二人の講師の先生に理論と実践、両方の面からご講義いただき、時間があつという間に過ぎていきました。ワークショップを通して、何のためにこの活動をしているのかなど、一つ一つとても納得しながら学ぶことができました。
- グループワークがあり、色々な考えを知ることができた。
- 学習・指導と評価の一体化を可能にし、授業方法の改善につなげていくための方法であるOPPA（1枚ポートフォリオ評価法）について詳しく学ぶことができた。OPPAの基礎的な理論や事例紹介を丁寧に説明いただき、その後、実践的な演習やグループワークの研修を行ったので、大変理解が深まった。
- この研修は2回目の受講となります。毎年、この時期に行われていますが、内容の連続性・発展性がみられることを望みます。もう少し具体的な実践を見たいと感じました。どのようなやりとりの中で、授業が組み立てられていっているのかを知りたかったです。意図をもって行われていたことも分かりますが、「グループワーク」の時間が長すぎたように感じました。
- 活気ある研修会で、意欲的になりました。生徒の立場が本当に良く理解でき、日々の授業形態を反省いたしました。
- まずOPPシートについて説明していただき、その後グループワークによる実践で、後半は大変濃密な内容でした。ワークショップの意図はわかるのですが、校種や教科によって自分が実際に授業で用いるとしたらどう感じるかなど、実際にOPPシートをどう使うかの部分がもう少しボリュームがあってもよいかと思いました。
- 教育評価について改めて自己の授業のあり方を考え直す機会となった。また小中の先生方とグループになったことで、観点別評価が定着している小中の先生方の向き合い方も知ることができた。自分にとっての課題になるが、生徒の書いた（表現した）ものを用いて正しく日本語を表現する力をどう育成したらよいのだろう。このことは各教科及び教育活動の諸々場面において求められていると思っはいるか、なかなかそれができない。確認印やOKをもらおうと、人はそこで自分の書いたものをよりよくしようという思考を停止してしまうように思う。この点に関しての研修会の機会があれば、ぜひ参加したいと考えている。
- 以前私自身も、先輩教員から示唆いただいて、一枚ポートフォリオを活用した授業実践を行った。やはりその時の子ども達の反応は、回を重ねる毎に授業に入り込んできたことを実感した。今回、OPPAが授業改善につながり、学びに向かう力を評価する際にも活用できるのではよいかと実感することができた。グループによる体験活動は、自分が実際に行ったことによりその効果を体感でき、今後に活かせると感じた。
- 講師の先生が体験を含め、分かりやすく説明していただけたから。
- 研修内容について、概要・理論の説明に加え、具体的な実践例の紹介をしていただき、理解しやすく、良かったと思います。
- 昨年度も参加させていただきましたが、昨年度とはまた違った視点をもっている中での参加なので、新たな学びがありました。時間もたっぷりあったり、意見交流することもできたりして、学びを深められたと思います。辻本先生のアイスブレイクは、研修会や校内研修、学級経営にも役立ちますので、とても参考にな

りました。ありがとうございました。とても充実していますし、授業改善にもつながるご講義なので、多くの人に知っていただけるといいです。郡内での開催をしていただき、とても参加しやすかったです。

- 講義（説明）とワークショップの両方があり、有意義でした。
- 参集場所が地域に近くて大変ありがたかったです。なかなか聞くことができない評価について学習することができ、2学期に活かせると思います。ワークショップ型の研修がとても楽しく、知らなかった先生方と親しく話し合いができ、みんな同じようなことに悩んでいることがわかりよかったです。
- 参加者が体験的に一枚ポートフォリオの学習を学ぶことができ、受講前と受講後の学びの変化を知ることができました。一枚ポートフォリオの効果を実感できた研修でした。
- 新教育課程になってから評価に関わる研修をいくつか受けてきた。受けるごとに内容が分かってきている。特に本研修では、OPPを使った評価について作成した堀先生に理論や仕組みを、実際の使用演習を辻村先生にご教授いただいたことで、自分の中ではとても腑に落ちたところが多かった。これまで振り返りシートを活用してきたが、本研修で学んだことを自分の振り返りシートにも反映させ、さらに進化させていきたい。
- 実際にワークショップを通して、OPPシートの良さや、授業に必要なものについて実感することができました。また、動画で実践の様子を見ることができたため、OPPシートの活用の仕方が具体的によく分かりました。
- 他校種の先生方とのグループが良かったです。
- 実際に授業で活用したOPPシートをいただくことができたので、今後の授業でどのように活用すればいいのか明確になった。
- 体験的な活動もあり、生徒の立場になってOPPシートについて学べたので良かった。これまで、学習の記録としての意味合いが強いものだと思っていたが、生徒にとって自己の学習を価値づけたり、教師が授業改善につなげたりできるものだと知ることができました。
- 実践事例を用いながら講義を受けることができたので、とてもイメージしやすかったです。
- 辻本先生のお話が実践例も踏まえて詳しく教えて頂き、とてもわかりやすかった。実際その場で評価を実践したこともわかりやすかったです。
- 堀先生による理論の説明と、辻本先生による実践紹介・ワークショップという構成が良かったです。高校での実践例も知りたいと思いました。
- 辻本先生の自己肯定感を意識するという意図は理解できるが、3時間の研修の1時間をアイスブレイク（自己紹介と他己紹介）で使用するのは違うと思う。その時間を、OPPAの具体的な事例や評価についてより詳しくやってもらいたかった。また、教科書等を持ち寄り、実際にOPPAを作成してみても意見交換するなどほかにもっとやり方があったのではないかなと思う。また、辻本先生の資料が配布されなかったため、資料を頂きたいと思った。
- 理論の概要や実践例だけでなく、パーソナルプレゼンなどのワークショップをグループに分かれて、他校種の先生方と出来たことが良かった。

- 理論編と実践の2つに分けての講義が大変分かりやすく、充実した研修を受講することができた。特に、実際のOPPシート等、具体物の資料が用意されており、今後の指導に役立つ講習であった。
- 内容は良かったので開催場所をセンターにして、もっと多くの先生方に受けていただけたほうが良いと思います。
- 良かった点は、評価に関する説明と、実際の場面を想定した活動の両方で構成されていた点。特に、児童生徒の記述に対してどのように評価するか考える場面があり、評価の難しさだけでなく、学習者に対する評価の効果について具体的に考えることができた。
- 非常に充実した内容で、半日では短く感じました。主体的に学習に取り組む態度の評価について、現場での取り組みと教育論という大局的な視点からの話が聞けて、とても有意義でした。
- 堀先生が遠くから来甲してくださり、生出演だったのでうれしかったです。(画面越しかと思っていたので) 久しぶりにもう一度理論を学びなおし、気を引き締めました。また、辻本先生からは、いろいろな示唆、アイデアをたくさんいただきましたので、明日からの授業や校内研修に生かしたいです。
- 様々な校種の先生方とのグループワークを通して、自分自身の課題に気づき、今後の授業実践に大変役に立つものとなりました。講師の先生方のご説明やお考えを聞き、大変感動しました。ワークシートもOPPシートの形式になっており、生徒がどのような思いでこのシートに向き合っているのかということも理解することができました。もう少し時間があると、さらにたくさんの先生方と交流ができるのにとってしまうほど、充実した研修となりました。

2 この研修会で得たことを今後どのように活かしていきたいですか。

- 自身の教育活動 2学期の道徳の授業でOPPシートを使っていこうと思います。
- 授業でOPPシートを作って使いたいと思います。
- 夏休み明けに、一年振りに、自身の授業改善、生徒の学習改善に、OPPシートをとおして取り組んでいきたいと思っています。
- 単元の中で、児童の成長がよくわかるOPPA(1枚ポートフォリオ評価法)を自身の教育活動の中でぜひ実践しようと思う。子どもの可能性を引き出す問い、将来に役立つ学びの問いなど、問いにも一つ一つ教育の目的があることをあらためて指導いただいたので、自分の中で整理し、授業のグランドデザインを作成したい。②学習・指導と評価の一体化を可能にし、授業方法の改善につなげていくための方法であるOPPA(1枚ポートフォリオ評価法)について学んだことを校内研で紹介し、全職員とチームで授業づくりに取り組んでいきたい。
- 校種が違い今回の研修内容をそのまま活用するのは難しいが、自校にあった振り返りシートの作成に挑戦してみたい。
- 単元を通して理解の進度や変容を見取るような授業を仕組み、OPPAシートを使って学習し、校内研で提案していきたい。
- 校内研で多くの先生方にOPPAシートを知っていただきたい。

- OPPシートをもとに、「主体的に学習に取り組む態度」の見取りに使っていったらどうかということを提案していきたいです。
- 校内の教員の指導に役立てていきたい。
- 4年生の理科の授業を担当しています。OPPシートの活用は、個別最適な学びにつながると感じたので、2学期に早速実践します。
- 評論文の読解の際に、段落ごとの内容整理にOPPシートを利用してみたいと思いました。・国語表現の授業でロールプレイをしてみたいです。SDGsに当てはまる新聞記事にシールを貼る活動は真似して実践してみたいと思いました。
- OPPシートを使った授業について、教科や単元で相性があるのかないのかわかりませんが、活用していきながら自分の中で取り込んでいきたいと思える研修でした。もう少し、自分の教科の中で、実践事例を集めながら活用方法やシートの作成方法について知識と実践を増やしていきたいと思いました。
- すべての学年の授業で活用することは難しさを感じるので、自分の担当学年の授業からOPPシートによる生徒の学習改善、自分自身の授業改善に取り組んでいきたい。その際、この夏の研修でTeamsを使った授業実践についての研修を受講したので、紙によるOPPではなく、デジタルデータでの作成や提出がうまくできないか模索していきたい。②については、自分がある程度形になった段階で同じ教科の先生間で情報共有を行いたい。③～⑤については今のところ未定です。
- 各校の校内研の指導助言で活用したいです。
- 観点評価については、喫緊の課題ですので、すぐにも授業で使うワークシートに採り入れる方法を考えてみたいと思います。
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体化の授業改善に向けての一つの方法として関係機関にお伝えできるのではよいかと考えております。
- 今回の評価に関する内容を、態度の評定に生かしたいという考えも聞かれたが、評価規準のもとに判断をするものとは異質であると感じるため、個人内評価の一助として役立てたいと考える。小学校は担任がほぼすべての教科を指導する利点があるため、教科の学習を入り口として、学ぶこと全般のおもしろさや有用感を味わわせたい。また、児童の考えや思いを教師が知り、フィードバックし、児童の心や頭の中を整理し教科の学習目標に導いていく過程は、日々の生徒指導の流れと似ていると感じた。学習指導と同様に、児童を知り、児童の思いや考えを適切に理解した上で個に応じた言葉かけを工夫する方法を、困難さを感じる児童を中心に生かしていきたい。
- 今回学んだことを生かし、自身の授業改善に努めていきたい。
- 自身の教育活動 算数の授業でどのように使えるか実践してみたい。②校内の会議や研究会等 校内研で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を研究しています。自己評価に使いたいです。
- 今後の授業でOPPシートを活用し、児童の考えをしっかりと見取っていきたくと思います。
- 自身の教育活動 理科の授業で日々の授業後に無理なく取り入れる方法を今回の学びを参考に考えて実施していきたい。

- 今後の授業に活かしていきたい。
- 2学期から早速、いろいろな授業で活用していきたい。また、校内研等で先生方に紹介し、ICTと絡めてできることから取り組んでみたいと思う。
- 子どもたちの自己肯定感を高めることが、授業の質を高めることにもつながるということを知り、人と関わる中で共感力や傾聴力を付けていくことで心理的安全性の確保やコミュニケーションの楽しさへつなげていきたいと思いました。個の非認知能力や個の見取り、アセスメントを重視することで、結果として学力向上や資質・能力の育成につながると学びました。今年度は、現場を離れていますので、校内研要請訪問等で学んだことを教職員の皆様に還元していきたいと思いました。OPPAの新たな視点をいただき、可能性を感じるすばらしい研修でした。参加させていただき、ありがとうございました。
- 2学期の学習の中でOPPシートを使って、授業や評価できるよう、自分の教育活動に活かしていきたいと思いました。これからの教育活動の有意義な財産になることと思いました。また、学年の先生方とも共有して、使っていけたらと思います。
- 指導主事として、評価等に関する要請を受けた場合に、各校の実態を踏まえ、指導・助言に当たりたい。特に、指導と評価の一体化が言われる中、具体的な評価方法の一つとして有効であることなど丁寧に説明していきたい。
- 2学期以降の授業で、OPPシートを活用していきたいと思いました。また、自己肯定感を高めることやファシリテータとして授業を改善していくことを意識していきたいです。学校全体にも、こんな取り組みがあると還流報告をして実践していけるようにしたいと思いました。
- 私自身はまだ経験も浅く、必要な資質・能力の育成に向けた授業作りや授業改善に戸惑うことも多いです。その中で、今回学ばせていただいた、実感させていただいたOPPシートの良さや活用方法をもとによりよい授業を作っていきたいと思います。お忙しい中、誠にありがとうございました。
- OPPIAについて、問いを構築し、生徒を動かす授業への転換を図っていきたいと考えている。
- 児童の評価を行う上で、OPPシートの有用性を知った。理科や社会等の授業でoppシートを使っていきたい。
- OPPIAについての知識が深まりましたし、ポートフォリオへのフィードバックについても実践例を見せていただいたので、外国語の授業でもOPPシートを作成したいと思いました。学校のCAN-DOリストを作成し、学期ごとに振り返りをしていますが、OPPシートをこれから作成して、単元を通した学びに生徒自身が気づけるようにしたいと思います。
- 自身の教育活動にICTを関連させながら利活用していきたい。
- OPPシートの記述を元に、生徒が主体的に自分自身の学びに取り組むよう働きかけていきます。
- 自身の教科指導において活用できる場面を探し、できることから実践してみたいと思います。
- OPPシートを活用した授業実践を2学期以降行っていきたいです。授業改善に役立て、児童が自己調整をすすめられる授業を目指して授業づくりをしていきたいです。
- 授業内で使いたいと思います。

- 今は教育事務所にいるが、学校現場に戻ったときは、指導する立場が予想されます。指導助言という部分において、一つの大きな引き出しになりました。今後の人材育成に向け、活用していきたいと思います。
- 小学校低学年の担任をしています。単元を決めて、効果的に取り組んでいきたいです。また、講師の方に道徳での効果的な使い方のアドバイスをいただいたので、道徳でも使っていきたいです。
- 指導と評価の一体化を図ることができるよう、今回の研修の実践事例にあったようにプリントを作成し、授業を行ってみたいと思う。また、校内研究でも指導と評価の一体化を主題として掲げているので、校内でも活用することができるよう、周知と実践を行いたい。
- 特別支援学校の評価とはやり方が異なったが、評価の視点やOPPAを用いた授業づくりなどを学ぶことができました。
- 自身の教育活動
- 問いを大切にしたい授業づくりをしたい。そして、子どもがこの1時間の中で何を学んだのかをみとり、次時に生かしていきたい。
- 自身の教育活動に生かしていこうと思います。今までOPPAシートを十分に活用していたとは言えないため、この研修での学びを元にしていこうと考えます。
- 翌日、早速ですが同僚の先生方とディスカッションいたしました。
- 自身の授業に生かすことはもちろん、校内や地域の研究会で事例を紹介することで、OPPAのよさについて広めていきたいと考える。
- 自分自身は、6年生の理科の授業で実践していく。教頭として、若手教員を中心に校内研究会等で先生方に伝えていきたい。
- 授業、校内研修に生かせると思います。ワークショップ型の活動が活発になるためには（辻本先生のビデオの生徒のように）「自己肯定感」が大事。これは、教員にも当てはまるので、校内研修の時にも生かせると思います。
- 授業の振り返りに役立てていきたい。
- 小学校1年生の担任をしているため本格的な導入はもう少し先になるかもしれませんが、道徳の授業などでぜひ活用していきたいです。
- 常日頃感じていたのは、授業の時間には限りがあり、なかなかOPPシートを書かせる時間がない、またあくまで学習内容の記録でしかなく、生徒も書かされているに過ぎなかったと思います。しかし、しっかりと目的を持って自己肯定感を高めるための工夫をしたうえでOPPシートに取り組ませることによって大変な効果を発揮することがわかりました。定時制の生徒は学習の基礎基本が定着しておらず、「思考・判断・表現」ということを意識して学習するということが後回しになってしまっています。また、受け身の学習になり、そこに「気づき」や「疑問」を抱かず、ただ授業が終わってしまうことがあります。一方で、こちらがOPPシートに書かせることに意識してしまい、アシストしすぎると、自発的に行うことは出来なくなってしまいます。「できない」「わからない」という本音もしっかりと書かせ、そこから教員が「わかる」授業へと改善していくという大事なツールであることを念頭におき、取り組んでいきたいと思います。他の定時制の先生方にも今回の研修を通して学んだ内容を共有していければと思います。

- 生徒、教師ともに学習について振り返り、今後の学習につなげていくために、OPPシートを授業内で活用していきたい。
- 生徒の形成的評価を、授業改善や学力向上につなげていきたい。
- 生徒への還元につなげていきたい。

■ 第43回教育フォーラムのご案内（2024年1月26日）

山梨大学教育学部は、山梨県教育委員会との共催で以下のように教育フォーラムを開催します。教育について関心をおもちの方のご参加をお待ちしております。

「思考力・判断力・表現力を考える2」～論理的思考・批判的思考を育むための具体的な実践を考える～

学校教育も社会の急激な変化に対応できる児童生徒の思考力・判断力・表現力を育んでいくことが急務となっています。思考力・判断力・表現力を育むためには、「論理的思考・批判的思考・対話」を引き出す学習デザインが有効だと考えられます。今回は、第41回教育フォーラムで好評を得た、トゥールミンモデルを土台にした「対話型論証モデル」の授業実践を先導している前田秀樹氏を講師に迎え、「論理的思考・批判的思考・対話」の育み方について、その考え方や実践方法について講演いただき、さらに、実践事例について議論します。

昨年度よりも事例に重きを置いた講座になりますので、初めての方にも、2回目の受講者の方にも、より授業実践に役立てていただけますので、ぜひご参加ください。

日時：2024年1月26日（金）18:00-20:00

対面会場：山梨大学甲府西キャンパス J 号館 5 階 A 会議室

講師：前田 秀樹（関西学院高等部 教諭）

パネリスト：前田 秀樹（関西学院高等部 教諭）

木下 花子（山梨県立笛吹高校 教諭 山梨大学教職大学院）

森田 美結（甲府市立上条中学校 教諭）

コーディネータ：古屋 啓一（山梨大学教育学部附属教育実践総合センター）

【入場】無料

【対象者】教員 学部学生 大学院生 大学等の研究者 県内外の教育関係者 一般の皆さま

【主催】山梨大学教育学部

【共催】山梨県教育委員会

【後援】甲府市教育委員会

【お問い合わせ】山梨大学教育学部附属教育実践総合センター（事務室）

TEL：055-220-8325 FAX：055-220-8790 E-mail：jissen@ml.yamanashi.ac.jp

対面と Zoom によるハイフレックス方式

参加希望の方は、下の QR コードのリンク先より 1 月 18 日（木）までにお申し込みください。



第43回 山梨大学教育学部 教育フォーラム

思考力・判断力・表現力 を考える 2

～論理的思考・批判的思考を育むための具体的な実践を考える～

学校教育も社会の急激な変化に対応できる児童生徒の思考力・判断力・表現力を育んでいくことが急務となっています。

思考力・判断力・表現力を育むためには、「論理的思考・批判的思考・対話」を引き出す学習デザインが有効だと考えられます。今回は、第41回教育フォーラムで好評を得た、ツールミンモデルを土台にした「対話型論証モデル」の授業実践を先導している前田秀樹氏を講師に迎え、「論理的思考・批判的思考・対話」の育み方について、その考え方や実践方法について講演いただき、さらに、実践事例について議論します。昨年度よりも事例に重きを置いた講座になりますので、初めての方にも、2回目の受講者の方にも、より授業実践に役立てていただけます。

日時 2024年1月26日(金) 18:00～20:00

開催方法 対面とZoomによるハイフレックス方式
対面会場: 山梨大学甲府キャンパス J号館5階 A会議室

講師ほか
【講師】 前田 秀樹 (関西学院高等部教諭)
【パネリスト】 前田 秀樹 (関西学院高等部教諭)
木下 花子 (山梨県立笛吹高校教諭 山梨大学教職大学院)
森田 美結 (甲府市立上条中学校教諭)
【コーディネーター】
古屋 啓一 (山梨大学教育学部附属教育実践総合センター)

【入場料】 無料
【対象者】 教員、学部学生、大学院生、大学等の研究者、県内外の教育関係者、一般の皆さま
【主催】 山梨大学教育学部
【共催】 山梨県教育委員会
【後援】 甲府市教育委員会
【お問い合わせ】
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター(事務室)
TEL:055-220-8325 FAX:055-220-8790
E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp

申込方法 参加をご希望の方は、1月18日(木)までにお申し込みください。



Zoomミーティング参加のためのURL等は前日までにお送りいたします。

■12・1月の主な行事予定

12～1月の 行事予定

山梨大学教育学部の
関係行事を含みます

研 修

○第43回教育フォーラム「思考力・判断力・表現力を考える2～論理的思考・批判的思考を育むための具体的な実践を考える～」

1月26日（金）18時～20時

※対面・オンラインによるハイフレックス方式で開催します。
対面会場は山梨大学甲府西キャンパスJ号館 5階 A会議室です。
山梨県教育委員会との共催事業です。詳細は本資料内のチラシを御覧ください。

教員採用試験対策講座

○時事通信出版局による模擬試験1

12月16日（土）…M1、3年、2年（次年度教採受験者）

○時事通信出版局による教員採用試験対策講座

1月10日（水）…M1、3年、2年（次年度教採受験者）

教育ボランティア

○教育ボランティア報告会

12月6日（水）…全学年

山梨県教育委員会主催行事のご案内

○2023 やまなし教育みらいフォーラム

「山梨県で学校の先生になろう」

12月17日（日）14時～16時30分…全学年

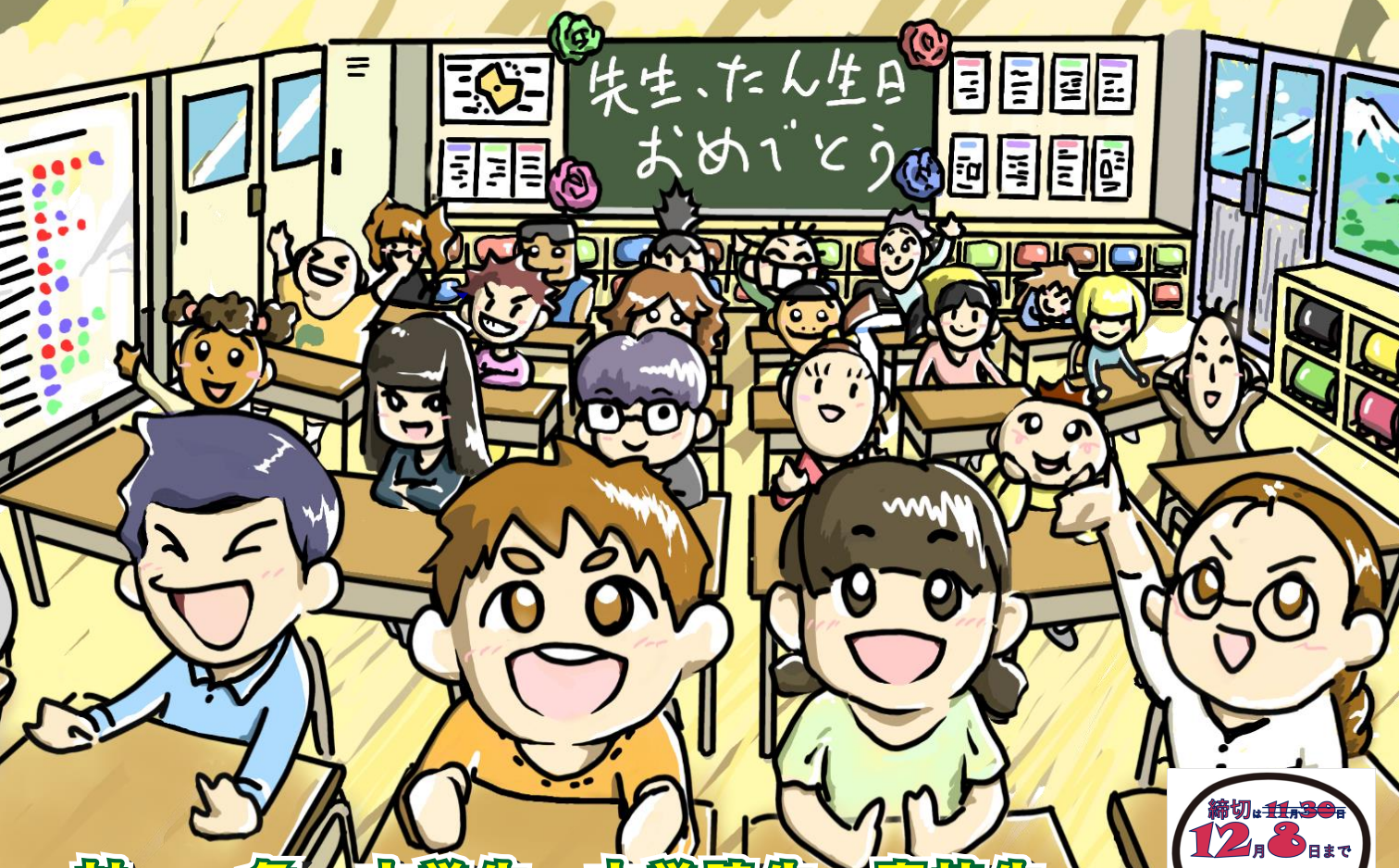
※オンライン方式で開催します。

第一部は若い先生達による教員生活に関するパネルディスカッション、第二部はベテランの先生による教員に求められる資質・能力についてのセミナーとグループ討議を行います。

2023やまなし教育みらいフォーラム

山梨県で学校の先生になろう!

▶ 令和5年12月17日(日) 14:00~16:30



対象
員
申込期間

大学生、大学院生、高校生
250名(オンライン開催)

令和5年11月1日(水) ~ 11月30日(木)

締切は11月30日
12月8日まで
延長!

《開会行事》 14:00~14:15

《第1部》 14:20~15:20

・パネルディスカッション

「山梨で学校の先生をする『魅力』について」

司会進行：総合教育センター指導主事

パネリスト：山梨県内現役教員6名

《第2部》 15:25~15:40

・セミナー「山梨県独自の先生方を支えている取組について」

《第3部》 15:50~16:25

・ブレイクアウトルームでのグループ討議



申込はこちら